

幼児期の創造性・音楽性を育てる

「表現Ⅰ(音楽・リズム)」の実践的研究(第5報)

——学生の表現(音とからだの動き)教育における習得度調査——

須藤 鶴子

(武庫川女子大学文学部教育学科)

A Practical Study of the Development of Children's Self-Expressions through Music—Rhythm

PART V

——A Survey of Student Learning on expressions

by Musical Instruments and Bodily Movements——

Tsuruko Sudou

Department of Education, Faculty of Letters,

Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663, Japan

The problem of this study was to investigate whether the students of children's education have really learned how to help children develop their verbal kinetic and musical expressions.

The following were the points of investigation:

1. Whether the students could create songs out of children's spontaneous utterances.
2. Whether the students could create rhythmical kinetic expressions out of children's spontaneous kinetic expressions.
3. Whether the students could create instrumental music that support the rhythmical kinetic expressions.

結 言

幼児教育において幼児の心情、意欲、態度を育てるには、幼児に関わる保育者が、幼児が生活の中で常に表出し表現している心身の発育発達の実態を把握して、適切な援助を行うことである。幼児が発育発達に適した直接経験を友達と楽しんで関わるように援助する教育を目指す学生は、感性豊かで音楽性・創造性を高め、表現能力を豊かに身につけるなど、資質の向上を図らねばならない。幼児の表出表現にある心に触れて、幼児の実態に沿うよう、自らの表現能力を高め、援助の研究経験を行う履修『保育内容研究・表現』の内容を次の3項目をポイントとして実践する。

1. 学生が幼児の自発的な発声や発語(つぶやき)から、歌をつくる。
2. 学生が幼児の自発的なからだの動きから、身体表現をつくる。
3. 学生が幼児のリズミカルな身体表現をサポートするよう、いろいろの楽器で音楽をつくる。

このポイントから、具体的な項目をつくり履修内容として実践した。その結果学生の環境に対する感性に豊か

(須 藤)

さがあり、表現方法が多彩となった。3つのポイントは、教育実習において幼児の心に共感する態度と表現能力の広がりが高まりへの意欲をもち、保育者としての自覚を促したと考える。なお「表現」の本来性の理解を深め、幼児教育において「表現」のねらいが達成されるよう講義を実践に合わせて行うものである。

方 法

1. 対象学生

本学，文学部教育学科初等教育専攻幼稚園課程併修並びに，短期大学部児童教育学科幼児教育専攻の学生について実施した。

2. 期 間 昭和56年度～平成3年度に至る各年度の前期または後期の履修期間である。

3. 履修内容

次のような項目に準じながら創造性，音楽性について講義と実習を行なった。

〔講義内容〕

- (1) 人間は環境刺激を感覚受容し，内的世界(心)を人体の運動で表す。
 - ① 感覚受容について
 - ② 人体の運動(神経系と筋肉)発達について
- (2) 胎児，乳幼児の発育発達にある表現の実態
 - ① 全身の移動運動・手腕の運動発達について
 - ② 適応，言語，社会的行動(顔の表情，ことば，所作，対人関係)の発達について
- (3) 内的世界(心)の様々の表現方法と様々の表現方法における「リズム」の特徴
 - ① 歌のリズムと，動きのリズムの特徴について
 - ② 動きのリズムパターンについて
 - ③ 音楽の曲，動きの音伴奏曲の違いについて

〔実技内容〕

- (4) 一つの素材を多面に多角にとらえる感動体験
 - ① 幼児一人ひとりの感動をそれぞれ受け入れ共感して，ふさわしい援助をする。
 - ② 環境の美しさや驚異などの感動体験を重ねて生活の中でイメージを豊かにする。
(おとなの既製概念をおしつけない)
- (5) 感動やイメージを，「歌」に，また「動きのリズムパターン」におきかえて表す。
 - ① 「つぶやき」や「ことば」にあらわれる「心」のリズムを「つぶやき」や「ことば」のイントネーションを生かして，幼児の心の「歌づくり」する。
 - ② 素材に感動してからだの動きに表れる心のリズム素材の特徴を生かしたパターンを，音質を選び，「動きの音伴奏曲づくり」する。
 - ③ からだの移動に表れる「リズムパターン」について基礎リズム(歩・走・跳)の「音づくり」を，和音の進行形で伴奏曲をつくる。
- (6) 「動きの表現」の特性について，動きの構成要因を知って，動きの音伴奏をつくる。
 - ① からだの動きの表現は，歌の“ことば”通りで動きにくい。空間構成する運動のリズムパターンは，ことばの倍以上の時間的経過が必要。感じたこと，イメージのいろいろの動きの「音伴奏」を作る。
- (7) 指・手遊びや，わらべうた遊びして動きの特性を体験し，表現遊びへと発展する。
 - ① 指遊び→手遊び→表現遊びへ。わらべうた遊び→表現遊びへ。
- (8) 生活の中の感動や豊かなイメージを，様々な表現方法をして模擬保育形式にまとめ，発表する。
教師・保育者・幼児を交替して経験する。
 - ① グループのメンバーで，様々な表現方法の一つを担当し，総合表現活動として適した「テーマ」をつけ，発表する。

- ②助言や援助について研究する。
- ③特に「ことばかけ」については、「～になって」を禁句とし、幼児自身の“心のことば”にする。
- (9) (8)を文字やリズム符、楽譜、動きの図などに総合記録する。
- ①ねらいと内容を明らかにし総合表現活動としての作品にする。
- (10)他のグループの発表を鑑賞する。
- ①幼児の心情や、表現しようとする意欲や態度を援助する力を、豊かにする。

結果と考察

学生が1グループ6人のグループ毎に、身近な環境から感動した素材をもとに、一人ひとり感じたこと考えたこと、イメージしたことを、話し合って内容とテーマを創った。それを各自が歌の創作、体の動きの創作、リズムミカルな動きや表現意欲を支える伴奏曲の創作など1～3創作して、総合表現作品にまとめ、発表した内容を、次の4側面から考察したい。

1. 環境素材に対する感性の豊かさ

実技中にとり扱われた48種のテーマと用いられた環境素材の種類を表1に示す。

表 1

No. 「テーマ」	素材(環境)
1 「うわぁでたぞ! じゃがいもくん」	人間・作業(日常生活事象), ジャガイモ(植物)
2 「どこへいく? たんぼぼさん」	わたげ・チューリップ・タンポポ(植物), 嵐(自然現象), ケムシ(動物)
3 「夜店って楽しいな」	行事・おもちゃ・科学物質(日常生活事象), 金魚(動物)
4 「がんばれ かのかっちゃん」	科学物質(日常生活事象), カエル・カ(動物)
5 「海の中って楽しいな」	乗り物(日常生活事象), 海(自然現象), わかめ(植物), タコ・魚・カメ・クジラ(動物)
6 「夏の海!」	乗り物, 科学物質・行事(日常生活事象), カニ(動物)
7 「なかよしブランコ」	乗り物(日常生活事象)
8 「つばめの赤ちゃん 生まれたよ」	ツバメ・鳥(動物), 雷(自然現象)
9 「たのしいサーカス」	人間・乗り物・行事(日常生活事象), ライオン・ゾウ(動物)
10 「たからさがしに行こう」	人間・乗り物(日常生活事象), ヘビ(動物), 嵐・雷(自然現象)
11 「がんばれ! ビグディーくまの子」	遊び(日常生活事象), クマ(動物)
12 「しゃぼん玉の冒険」	遊び・人間(日常生活事象), 鳥・チョウ(動物)
13 「けんちゃんのあさがお」	雨(自然現象), あさがお(植物)
14 「ぶんぶんちゃんの日」	ハチ・クモ(動物)
15 「ぼくたちみんな なかよしなんだ」	カバ・キリン・サル・ゾウ・カンガルー(動物)
16 「ジャンプでだっしゅつ!」	人間(日常生活事象), スイレン(植物), ザリガニ(動物)
17 「波とカニより」～海の荒れた一日～	海(自然現象), カニ(動物)
18 「雲の上のお散歩, 楽しいな」	人間(日常生活事象), 雲(自然現象), 木(植物)
19 「かえるのお散歩」	カエル・ヘビ(動物), 滝(自然現象)
20 「フー太くん お空のたび」	人間・おもちゃ(日常生活事象), クマ・ウサギ・カニ・魚(動物), 嵐(自然現象)
21 「みんなだいすき ふわふわパン」	食物(日常生活事象)
22 「おおきなおいも」	さつまいも(植物), 人間・作家(日常生活事象)
23 「わたげのふわちゃん? どこいくの」	ミツバチ・チョウ(動物), 風・雨(自然現象), わたげ(植物)
24 「おいしいカレーライスをつくろう」	食物(日常生活事象)

(須 藤)

25 「たのしいおせんたく」	作業(日常生活事象)
26 「ピヨちゃん、どこへ行くの？」	ヒヨコ・チョウ・カニ(動物)
27 「こんにちは ゆきさん」	雪(自然現象), 木(植物), ウサギ(動物)
28 「おたまじゃくしはなんの子？」	人間(日常生活事象), オタマジャクシ・カエル(動物)
29 「ぼくのともだち しらない？」	雲・山(自然現象), 鳥(動物), 木(植物)
30 「雨の日のお庭」	人間(日常生活事象), 風・雨(自然現象), 木(植物)
31 「歌おう、踊ろう、ゆかいなカエルの仲間たち」	カエル・魚・サギ(動物), 木(植物)
32 「どんなお花が咲くのかな？」	種・花(植物), チョウ(動物), 雨(自然現象)
33 「しゃぼん玉 どこまでとんでいくのかな」	人間・遊び(日常生活事象), 風・にじ(自然現象)
34 「さあ、空の冒険が始まるよ」	雲・嵐(自然現象), 小鳥(動物), おもちゃ(日常生活事象)
35 「子どものあそび」～冬から春へ～	木の葉(植物), 雪(自然現象), 人間・行事(日常生活事象)
36 「冬がきたよ」	北風・雪(自然現象), リス(動物), 木の葉・ドングリ(植物)
37 「こんばんは サンタさん」	行事(日常生活事象), 雪(自然現象)
38 「春を見つけに行こう！」花・ツクシ・タンポポ(植物), 風(自然現象)	
39 「子うさぎの冒険」	ウサギ(動物), 雪(自然現象)
40 「すずめの日」	スズメ(動物), 雨(自然現象)
41 「がんばれ つゆ坊」	つゆ・風(自然現象), カエル・クモ(動物)
42 「くりごはんがたべたいな」	人間(日常生活事象), クリ(動物)
43 「稲穂ちゃんの夢 ～おもちになりたい～」	作業(日常生活事象), 稲穂(植物), 台風(自然現象)
44 「ポップコーンを作ろう」	とうもろこし(植物), 作業・機器(日常生活事象)
45 「たきび」～火のよう精たちとおいもやき～ あったかいね、たきびって…	たきび(日常生活事象), 風・火(自然現象), さつまいも(植物)
46 「ささぶねの冒険」～僕のお舟どこへいくんだろう～	ササ(植物), カニ・メダカ(動物), 人間(日常生活事象)
47 「雨つぶのぼうけん」	雲・雨・山・川・海(自然現象)
48 「つばめのぼうけん」	ツバメ(動物), 木(植物), 風・海・花畑・雲(自然現象)

表1は、身近な環境から多くの素材をとらえていることは、環境への感じ方が多面となり、また一つの素材を多様に感じられるようになっていることを示しているといえる。すなわち、学生の「環境に対する感性」が豊かになったことを示すものと考えたい。

2. 表現方法の多彩さ

創作作品の中にみられる多様な表現方法とその数を表2に示す。

表 2

(※ 表現方法 A: 歌 B: からだの動き C₁: ピアノ伴奏曲 C₂: いろいろの音質楽器)

テ ー マ	表現方法				創作数 (計)
	A	B	C ₁	C ₂	
おたまじゃくしはなにの子かな 秋とあそぼうよ	1	7	7	0	15
	3	7	6	5	21

幼児期の創造性・音楽性を育てる「音楽リズム」の実践的研究（第5報）

がんばれ かのかっちゃん	3	6	6	0	15
—かえるのテーマ、かのかのテーマ、朝のうた—					
夏の海	0	7	7	1	15
海の中って楽しいな	1	7	7	3	18
うわぁ でたぞ！ じゃがいもくん	1	7	7	2	17
どこへ行くの？ たんぼぼさん	2	8	8	0	18
夜店って楽しいな	1	6	6	1	14
なかよしブランコ	1	5	4	0	10
つばめの赤ちゃん 生まれたよ	1	4	5	1	11
たのしいサーカス	2	5	4	0	11
たからさがしに行こう	2	5	5	1	13
がんばれ！ ビグディーくまの子	1	5	5	0	11
しゃぼん玉の冒険	1	5	5	1	12
けんちゃんのあさがお 芽がでた	1	7	7	0	15
ぶんぶんちゃんの日	0	7	7	0	14
ぼくたちみんな なかよしなんだ—動物たち—	4	7	5	0	16

表2から、グループの活動で各自が素材をどう感じて、どの表現方法で表しているか、一つのテーマとしてそのまとまりを見ると、表現方法が多彩となったことを認めることができる。

またそれぞれの表現方法であっても、内容の変化に併せて7通りにも扱っているところからみると、内容が豊かになり、表現能力の広がりが得られたと考えられる。

3. 表現内容とその表現方法並びに創作の数

表3は表現創作に用いられた表現方法の多様性を示す2例である。

表 3
(※ 表現方法 A: 歌 B: からだの動き C1: ピアノ伴奏曲 C2: いろいろの音質楽器)

テーマ	環境素材	表現内容 感動したり、イメージしたり、考えたりしたこと	表現方法
(例1) おたまじゃくしは なにの子 かな	池 よかえるの)卵 おたまじゃくし 草 石 池	◇気持ちの良く晴れた日、池へでかける ◇卵が動いていることに感動する ◇卵がおたまじゃくしに変わること感動して ◇自由に泳ぐかわいらしさに感じて ◇おたまじゃくしのからだ、次第に変化していく様子、かえるになった驚き ◇かえるのすごいジャンプを楽しんで遊ぶ ◇春がくることを待ちながら冬眠する気持ちを感じて	B と C1 B と C1 B と C1 B と C1 B と C1 B と C1 A と B と C1
(例2) 秋と一緒に あそぼうよ	天候 風 木 葉 嵐 どんぐり 幼児 どんぐり 葉 夕やけ	◇気持ちのよい天気を感じて ◇風が友達と遊びたい気持ちを感じて木を誘い、一緒に遊ぶ ◇木の葉が、一枚、一枚風によって舞いながら、降りて来る様子を楽しく感じて ◇嵐と一緒に舞う ◇嵐できつついたはっぱの様子を感じて ◇嵐で落ちた、どんぐりからよびかけられて、一緒に遊ぶ ◇子どもたちが山へ出掛けてくるどんぐりやはっぱと遊ぶ ◇夕やけに誘われて、みんな帰っていく	つぶやき AとC2(鈴・トライアングル)とC1 BとC1 BとC2(ティンパニー・ピアノ) BとC2(ティンパニー・ピアノ) それぞれのポーズ BとC1 AとBと C2(カステネット・ウッドブロック・鈴) AとC1とBとC2 (鈴・カステネット・ウッドブロック・トライアングル)

例1では1つの素材から、歌の表現創作が1、からだの動きの表現創作が7、動きの表現をリズムカルに援助する伴奏音楽創作が7、合計15の表現創作ができた。

例2では1つの課題から、8つの素材が関わりをもって、歌の表現創作が3、からだの動きの表現創作が7、動きをリズムカルに援助する伴奏音楽創作が6、楽器だけで表現創作が5、合計21の表現創作を行った。

表3から、学生が幼児の心を思い、イメージしている姿が充分うけ取られ、学生が実習において幼児の感動に共感してその創造性を援助できるものと考えられる。

4. 幼児教育者としての自覚と意欲の高まり

以上実技の観察の結果や、実技後の学生達の感想を総合して考察すると、教育の場で出会うであろう幼児の表出、表現(姿)に対する学生達の感じ方が他面的、多角的になったことがいえると考えられる。①素直さ・純粋さを感じる。②発想、連想が素晴らしい。③イメージがゆたかである。④おもいやりが深くやさしい。⑤発見して、すぐまねる。

具体的には、

◇感じたことは、すぐ体に表示れる。

◇表現することは自然であって、楽しんでいる。

◇椅子に座らない幼児を見て“あとひとり あとひとり”と手拍手する。ちょっとした、このことが、2人から3人、4人、そして全部に広がっていた。

◇きみどり一色のさなぎから、羽の模様へと変わって行くのを見て“仮面ライダーみたいや”と。

◇ゆすらうめの実を見て「大きくなったらリンゴになりそう」と。

◇障害のある子と遊ぼうと一生懸命である

◇ピーマンのそばの雑草を取りながら「ピーマンの栄養をとってしまうから抜かなあかん」とつぶやく

◇年長児が、逆あがりをしているのを見て、すぐまねて出来る。

◇年長児の、お団子づくりを見ていて、「おおきいほどかたいよ」という。

◇年長児の輪になって遊んでいるのを見て、「裏(の場所)でしょう」と友達を誘う。

といった創造性を示す態度表現が見受けられた。

そして、幼児教育者としての自覚としては、次のようにまとめ上げることができる。

- (1) 平素、環境をもっとよく観察したり、感動するよう心がけねばならない。
- (2) 図鑑やTVで知っても、感動がない。直接に触れた感動が大切である。
- (3) 幼児には既成概念がない。既成にとらわれないようにしたい。
- (4) 幼児の感動をひとつひとつ受け入れ、幼児の立場で考えねばならない。
- (5) ひとりひとりの声を聞き、つぶやきを聞きもらさないことである。
- (6) 幼児にただことばがけすることはよくない。幼児の遊びが楽しくなるように考えることが大切である。幼児へは笑顔で接することが大切で、また一緒に活動することである。

ま と め

幼児教育における「表現」の目標の理解度については、幼児教育に携わる者としての自覚と表現能力の必要性を感じていることが教育実習において幼児の生活にある表現に共感し、幼児の表現意欲や能力を高める適切な援助ができる努力をして感性を豊かにし、表現能力に広がりを得ることの大切さを感想としてもったと考えられる。

保育内容研究「表現Ⅰ」履修学生が、内容の3つのポイントから、1. 講義内容3項目と、実技内容の7項目を通した習得度の結果より、学生の感性イメージが豊かになり、創造性・音楽性が高まり、幼児の表現発達を援助する能力が高められると考えられる。

今後もなお現場にある課題をとりいれて、学生の習得する表現能力が生かされるような研究を考えたい。

文 献

- 1) 須藤鶴子, 幼児期の創造性、音楽性を育てる「音楽、リズム」の実戦的研究(第1報), 武庫川女子大学紀要, 32, 105-113(1984)
- 2) 須藤鶴子, (第2報), 武庫川女子大学研究紀要, 33, 43-53(1985)

幼児期の創造性・音楽性を育てる「音楽リズム」の実践的研究（第5報）

- 3) 須藤鶴子, (第3報), 武庫川女子大学研究紀要, **35**, 105-108(1987)
- 4) 須藤鶴子, (第4報), 武庫川女子大学研究紀要, **37**, 71-78(1989)